『幼稚園の現場から』

23・大量に焼き芋を焼く!

原町幼稚園園長 鶴谷主一(静岡県沼津市)

●焼き芋焼いて20年

幼稚園はもちろん、保育園でも子どもが何か しらの経験を通して心身を発達させていくこと が、園で営まれている活動の目的であり、園そ のものの存在意義でもありましょう。

何を身につけるかはその園の教育方針により 違いますが、とくに小学校以降の系統的学習に つながるような活動において、外してはならな いのが「内発的動機付け」といわれる「子ども 自身の自発性」を引き出しながら活動を進める ことではないでしょうか。

そのためのエッセンスとして「楽しい!」と いう感情や「興味・好奇心」というキーワード は欠かせません。

> ①たのしい! ②やりたい! ③まんぞく! →次へつながる意欲が沸く

という流れを作り出せれば、教師の意図する「発達のねらい」を子ども自身がどんどん獲得していってくれます。伝達されて覚えていく〈静の知識〉より、実体験を伴う〈動の知識〉が幼児期には適しています。なので教師たちはいつも「子どもたちをどう楽しませようか…」と腐心していますが…これがとても重要な仕事なのです。

さて、焼き芋の話に移りましょう 僕は童謡の「たきび」の歌を聞くと(歌詞には 焼き芋なんて出てこないんですが)あの煙の下 には、ホクホクした焼き芋が隠れている!とつ い連想してしまいます。

> 『たき火』 かきねのかきねのまがりかど たきびだたきびだおちばたき あたろうかあたろうよ きたかぜぴいぷうふいている

僕が少年時代に、父が枯れ草を燃やすときには、決まって芋を放り込んで焼いてくれた経験があるからでしょうね。昭和30年代の田舎では

そんな情景が普通にあったのですが、ずいぶん 前から野焼きが制限され、都市部はもちろん、 地方の市町でも個人的に焼き芋を焼くこともか なわなくなってきました。

「子どもたちにも焼き芋の情景を味合わせてやりたい!」園長のノスタルジックな動機が発端であることは否めませんが、かれこれ20年以上、幼稚園で焼き芋を焼いてきました。

少量でしたら電子レンジやオーブンでも「焼き芋」モードでおいしく焼けるし、バーベキューの時に焼くこともできるでしょう。同じようなものでも、焼き芋を〈動の知識〉とするためには何が何でも焼かなくてはなりません。

秋に芋掘りに出かける幼稚園・保育園・施設は多いと思いますが、いも煮や蒸かし芋で味わっている園も多いと思います。この方法だとほとんど失敗はありません。

野焼きの焼き芋は、時間通りに焼けなかったり、焦げてしまったりと失敗の不安がつきまといます。それでも焼き芋を子どもたちに食べさせたい!と、僕と同じように思われる方は今回紹介する方法を試してみてください、きっとうまくいくと思います。

「自分たちが掘ってきたお芋が焼くだけでこんなにおいしくなるんだ!」という、じつに楽しく、美味しく、満足できる(お腹も?)活動ができることでしょう!



▶やきいもだあー!

●情報交換がヒントに

この方法は、東京八王子にある高尾幼稚園の 園長先生に十数年前に教えてもらい、それ以来 安定して焼き芋を焼き上げることができるよう になりました。

それまでは、落ち葉やもみ殻、薪を使っているいろ試行錯誤をしてきましたが、場所も取るし煙いし、時間までに焼きあがらず、お腹をすかせた子どもたちをずいぶん待たせてしまったこともあります。

幼稚園の活動は、それぞれの園で独自のレシピ(活動計画)を持っていますが、同じような活動をどうやればうまくいくか、具体的な情報交換がそれぞれの園の活動を充実させます。この方法を教えて下さった先生への感謝の気持ちを込めてこれを読んで下さっている皆さんにも詳しくお伝えします。

さほど広くない ●園庭で焼くことを考慮

畑や広い空き地で焼くなら、火の用心や煙のことをそれほど気にせず焼けるのですが、幼稚園で行う場合は園庭のまん中あたりになるのではないかと思います。園庭が広くない場合は、火の大きさや灰の処理も考慮しなければなりません。それも**木炭を使って焼く**ことで解決です。

200本を一気に焼くとなるとそれなりの道具が必要ですが、実施される園の規模に合わせてアレンジしてくださいね。

童謡「たき火」のイメージはこの際置いておき、火は見えないけど遠赤外線で焼くことで、さほど広くない園庭でもおいしい焼き芋が焼けます。

●道具 ドラム缶の釜



お知り合いの工務店や溶接をやっているところで、ドラム缶を縦に真っ二つに切ってもらい、「釜」を入手します。両側に溶接で取っ手を付け

てもらうと便利です。1釜でマックス200個焼けます。大量でなければ市販のバーベキューコンロを使用しても良いでしょう、芋を平面に並べられる数×2段程度までは焼けます。

▶写真の釜は10年以上使用して錆びていますが問題なく使えます。金具を溶接して取っ手を付けてあります。サイドに空気穴が開けてあります。

その他道具一覧 (焼き場)

ドラム缶の釜を安定させるために両側
を挟みます
(1釜に2個)
ホームセンターなどで購入します。
1 釜で芋200個焼く場合12kg使用
芋100個で9kg見当
材木の端材など木炭に火をつけるため
のもの、(1釜に端材袋1袋程度)
煙を最小にしたければ着火剤でも可
その場合木炭の量を増やす
バーベキュー用の長めのもの
炭に風を送るときに便利
ウチワでも可だが熱に注意
古いもの、芋をつかむときは二重にし
て使う、合成繊維製は溶けるので不可
燃えている炭を入れ替えるためのもの
着火用、ライターでも可
水を入れておき、使った火バサミを入
れる
焼き芋の焼き上がりを確認する



▶ 1 釜100個 × 2釜=200個焼く準備(木炭18kg)





▶充電式ブロアーと綿軍手

芋の準備

いも+アルミホ	洗った芋をアルミホイルで隙間なく
イル	包んで準備。二重でも良い。
新聞紙	あつあつの焼き芋を入れて子どもが
	食べるための袋をつくる
ゴミ袋	焼き上がった焼き芋からアルミホイ
	ルを剥いて捨てる。



▶前日に自分たちで洗った芋にしっかりアルミホイルを巻いて持ってきました。



▶新聞紙を使って紙コップの要領で芋を入れる袋を事前に準備します

●事前準備

- ①子どもたちが芋掘りで掘ってきた芋から適度 な大きさのものを選別し、必要な個数の2割 増しで準備しておきます。(中が傷んでいた り、焼いたときに焦げたり、食べるときに落 としたりした時の交換用)
- ②年中長クラスの子どもたちが事前に芋を洗い ます。
- ③当日、芋を焼く前に、子どもたちがアルミホイルで芋を巻きます。隙間がないように二重ぐらいにします。隙間があるとそこから火が入って焦げてしまいます。

アルミの内側に濡れた新聞紙を挟み込む方法 もありますが、新聞が焦げたときに取り除く のが大変だったので省いています。なんとな くふつくら仕上がる感じがしますが、好みで やっても良いと思います。

- ④クラスでは、お芋が焼けるとどう変わるのか、お家ではどうやって食べているかなど興味を沸かせる話が弾みます。
- ★お近くの消防署への届け出も忘れずに!

●タイムテーブル

火の管理は時間がポイントです。仕上がり時間 から逆算して考えていくと良いでしょう。

9:00am 木材に点火→おき火づくり



9:30 火のピークが過ぎ、落ち着いてきた ところで(火があるうちに)木炭を 投入※目安は芋を入れる最低30分前 ブロアーで送風し木炭の着火を促進

10:00~10:30頃

クラス毎に子どもたちが園庭に出 てきて芋を投入します。





▶みて!しっかりアルミホイル巻いてきたよ!

- ①担任の誘導で「焼き芋グーチーパー」の手遊びなどをして気持ちを盛り上げる。
- ②火が見えないけど炭火の熱が出ていることや投入方法について説明する
- ③一人ずつ釜に近づいて芋を投入(大人の補助が必要)
- ④おいしく焼けますように!とお願いをして、あとは焼き芋が焼けるまでクラスに戻って、あるいは園庭で遊びながら待ちます。



▶うわあ!あつい!近づいてくると遠赤外線の熱に驚きます。



▶おいしくなりますように…

- ◆芋が多いと釜の中で重なりますが、下 の芋から焼けていくのでそのままにし て焼きます
- ◆炎はほとんど見えませんが、熱が出て いればOK
- ◆火が弱くなったらブロアーで火を活性 化させます
- ◆芋の大きさ、太さにより焼き上がり時間は異なりますのでご注意を



10:50頃~

20分経った頃に一度全ての芋をチェックして焼けたものと再度焼くものとに分類。 (二重にした軍手でギュッとにぎって柔らかければOKor竹串がスッと通ればOK)

- ◆服装は灰をかぶっても良い綿の長 袖、頭には手ぬぐい等がベスト
- ◆芋を出すときに火バサミ (トング) を使い、一旦バットや地面の上に転がし灰をふるい落としますます。手で直接いくと炭でやけどをする恐れがあるので注意!

11:10頃~

順次焼けていくので、芋のチェックを繰り返しながら、アルミを剥いて焼き芋を新聞紙に入れ、クラス分そろったところで順番に子どもたちが呼ばれて食べに来ます。この作業は熱いので大人がやります。子どもには無理です。



▶この活動にはお父さんお母さん方のお手伝い(事前に募集)が欠かせません。芋の焼きチェックから袋入れ、食べる補助まで一緒にやっていただきます。幼稚園だけでなく保育園でもお休みや時間休を取ってお手伝い下さるので本当に助かります。

12:00頃~

お昼にはその日予定した子どもが食 べ終え、片付けに取りかかります。 原町幼稚園と原町保育園では合わせ て3日間かけて焼き芋を焼きます。



▶新聞袋にセットされた焼き芋



▶あちち



▶でっかいでしょ!



▶がぶっ!



▶これみてよ!うまいぜー!

直火をはじめて目にした子どももいますし、はじめて焼き芋を食べた子どももいます。芋が嫌いで家に持って帰った子どももいますし、焦げたところが嫌で食べるのに苦労した子もいれば、口の中を真っ黒にして皮ごとモシャモシャ食べている子もいます。

冒頭に「子どもが何かしらの経験を通して心身を発達させていくこと」が園の存在意義と書きましたが、焼き芋を焼いて食べることが、子どものどんな発達を促しているのかはっきりと実証することはできません。

ただ子どもたちの心の中に物語を作ることが できたと思います。

「火がついてさあ、ものすごく熱かったとこに 芋を投げて待ってたら、焼き芋になったんだ よ!…甘かった~!また食べたいなあ!」… 大人の言葉でまとめるとこんなところでしょう か?楽しい物語を積み重ねて大きく育ててい く。それも私たち保育者の大事な仕事ですが、 焼き芋にかぶりつく嬉しい顔を見たら大変だけ どまたやってあげたくなっちゃいますね。

「幼稚園の現場から」マガジンラインナップ

第1号 エピソード

第2号 園児募集の時期

第3号 幼保一体化第

第4号 障害児の入園について

第5号 幼稚園の求活

第6号 幼稚園の夏休み

第7号 怪我の対応

第8号 どうする保護者会?

第9号 おやこんぼ

第10号 これは、いじめ? 第11号 イブニング保育 第12号 ことばのカリキュラム 第13号 日除けの作り方 第14号 避難訓練

第15号 子ども子育て支援新制度を考える

第16号 教育実習について

第17号 自由参観 第18号 保護者アナログゲーム大会

第19号 こんな誕生会はいかが? 第20号 ITと幼児教育

第21号・楽しく運動能力アップ

第22号・〔休載〕



原町幼稚園 園長 鶴谷主一

HP: http://www.haramachi-ki.jp/ MAIL: osakana@haramachi-ki.jp

Twitter: @haramachikinder